

3
2025

三重病院

ニュースレター

news letter vol.302



- 01 院長退任のご挨拶
- 02 診断参考レベル(DRL)ってなに?
通所支援事業のひとコマ/外来からのお知らせ
リソースナース会
- 03 三重県医療的ケア児・者コーディネーター養成研修
5病棟の生活のひとコマ⑦
- 04 外来のNew Faceの紹介
異動のごあいさつ/やまばとギャラリー
糖尿病ワンポイントアドバイスNo.8
- 05 2病棟の子どもたちの生活のひとコマ
今月のみえツウちゃん
- 06 病院からのご願い/外来診察のご案内



院長退任のご挨拶

谷口 清州

2025年3月31日をもって院長職を退任致します。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)とともに院長になり、COVID-19とともに去りぬということであれば区切りも良かったのですが、残念ながらこちらは終了とはいかず、まだまだ続いています。

さて、当時COVID-19の対策は新型インフルエンザ等対策有識者会議基本的対処方針等諮問委員会にて議論されており、私はその一員でした。諮問委員会というとその場でいろんなことを決めているように思われるかも知れませんが、実際にはそれまでに官僚と政治家が話し合っ、当日には政府部内や経済界と調整済みのものができますので、当日の議論ではなかなかひっくり返ることはありません。

COVID-19は急性期は軽症であっても、その後脳梗塞や脳出血、心筋梗塞などの心血管系の合併症、自己免疫疾患や糖尿病などを発症するリスクが増大し、ブレイン・フォグと呼ばれる認知機能や記憶力の低下など脳の器質的な障害を含む多くの後遺症を残すことが分かっていました。これはウイルスの持続感染やスパイク蛋白が脳内に残って、慢性炎症をきたすことなどが原因ですが、我々は当時からこういう事実を把握しており、人々の健康を守るためにはどうしたらよいかということについて、一般の方から見れば、「厳しい」議論を行っていました。

我々の議論が受け入れられることもありましたし、そうでないこともあったわけですが、あくまで我々はアドバイスをを行うという立場で最終的には対策本部が決めていました。しかし、その過程はいわゆる「調

整」という考え方で、エビデンスに基づいて論理的に考えられたものではありませんでした。おそらく、これまでも日本の多くの政策というのはこういう方法で決められてきたのだと思いますが、少なくとも現代の欧米ではあらゆるデータを集めて、それらを総合的に解析してもっとも良い方法が選択するという方法で決定されていました。

最近咳止めなどの薬が入手できなくなっておりますが、これは政府が医療費を削減しようとして薬価を大きく下げたため、製造しても赤字になるだけなので薬品会社が製造しなくなったためです。昨今、多くの病院が経営困難に陥っておりますが、これは現状の医療保険制度では経営が成り立たない状況になっているからであって、このままでは多くの医療機関が潰れます。下水道管の破裂による道路の陥没事故がありました。現代の日本は戦後高度成長期に作ったものがつぎつぎと寿命を迎えている状況にあります。上述の医療保険制度も同時期に作られたものですが、当時とは人口構成、疾病構造のみならず医学自体が大きく変わっていますので、当時のままの制度が機能するわけではなく、保険点数の調整などの付け焼き刃的な対策ではもう保たないところまで来ているわけで根本的に再設計する以外にはなく、これらができないのも、その元となる政策決定の方法がもはや時代遅れだからだろうと思います。

哲学者のニーチェ(Friedrich Wilhelm Nietzsche)は、「脱皮できない蛇は、死ぬしかない。同様に、考えを変えられない精神もまた失われるのである。」と言っていますが、まさに旧態に固執して新たな時代に適応していくことができなければ滅びていくしかないのだらうと思います。まさに現状の日本に当てはまるのではないのでしょうか。最後に言いたいことを言わせて頂きましたが、新たな時代を担う方々に今後のご活躍を期待して、私の退任の挨拶とさせていただきます。長い間、ありがとうございました。